

事後評価報告書(国際緊急共同研究・調査支援プログラム(J-RAPID))

1. 研究・調査課題名:「津波被害を抑制するための市街地構造の役割に関する共同研究」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者: 千葉大学 大学院工学研究科 教授 山崎 文雄

2-2. アメリカ側研究代表者: ImageCat Inc.本社代表取締役社長 Ronald T.Eguchi

3. 総合評価:研究・調査の目標及び実施環境にてらして、相応な成果が得られている

4. 事後評価結果

(1)研究・調査成果の評価について

日本側、米国側の研究連携が着実に実行され、研究がほぼ計画通りに進展した。今後、世界的な地震・津波工学研究分野での成果の活用と、日本の貢献に期待する。津波伝播・遡上シミュレーションと建物被害調査データとの照合がなされているが、人命との関連なども考慮されるとさらに良い研究となったと思われる。

(2)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

研究チームは組織的にうまく運営されており、個々のメンバーの貢献もある程度明確である。また、日本側が提案した津波による建物被害経験式が、米国側研究者の働き掛けにより米国危機管理庁(FEMA)の津波被害予測モデルに組み込まれたことは特筆すべきであろう。研究成果の公表も活発になされている。高いレベルの論文の公表も着実になされている。

一方、津波被害と建物配置の関係など、その具体的内容が報告書から読み取れなかった点は残念である。

(3)総合評価コメント

日米連携の元、現地調査、データ分析、論文執筆等が積極的になされており、高く評価できる。特に日本側が提案した津波による建物被害経験式が、米国側研究者の働き掛けにより米国危機管理庁(FEMA)の津波被害予測モデルに組み込まれたことは特筆すべきであろう。